

全医連だより

2020年10月26日号 NO. 38

一般社団法人 全国医師国民健康保険組合連合会

第11回代表者会を開催

第11回代表者会が、10月16日（金）の午後1時半から、東京駅に程近い「トラストシティカンファレンス・丸の内」の会議室で開催された。この日は本来であれば秋田県で開催される予定であった第58回全体協議会が開かれる日でもあった。



今回は新型コロナウイルス感染症の影響もあり6組合が欠席。

出席役員は以下のとおり。宮城信雄会長、近藤邦夫副会長、谷澤義弘、長瀬清、佐々木悦子、尾崎治夫、吉沢浩志、篠原彰、山田晃久、村上博、近藤稔各理事、小野自仙監事、櫻井秀也顧問。

会議の司会は、福島幸隆 秋田県医師国保組合副理事長が担当した。

1. 開 会

まず挨拶に立った宮城会長は、第11回代表者会が東京開催となった経緯に触れた後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対しては、「選択と集中」という世界的流れを転換し、保健所の充実や感染症病床の確保など、平時からの医療提供体制の整備が必要と強調。医療は最も重要な社会的インフラであり、減収となっている医療機関への国の積極的な支援が必要と訴えた。

2. 議長選出

- ・大野忠 秋田県医師国保組合理事長を議長に選出し、議事が進行された。

3. 協議事項

(1) 令和元年度の事業報告について

- ・谷澤理事から資料『第11回代表者会提出議案』をもとに説明があり、全員一致で承認された。

(2) 令和元年度収入支出決算について

- ・谷澤理事から資料『第11回代表者会提出議案』をもとに説明があり、全員一致で承認された。

(3) 令和元年度監査報告

- ・小野監事から、令和元年8月1日～令和2年7月31日までの、令和元年度事業報告及び令和元年度収入支出決算並びに財産については、帳簿・書類と照合して監査を行ったが、違算のないことが報告された。

(4) 役員を選任（理事・監事）について

- ・谷澤理事から、理事2名（太田照男 前栃木県医師国保組合理事長、平松恵一 前広島県医師国保組合理事長）から辞任届が出されているほか、小玉弘之 前日本医師会常任理事が日本医師会の役員を退任されたため、計3名が欠員であること、また松本純一監事（三重県医師国保組合理事長）が任期満了になるため、監事1名が欠員であるとの説明があった。

そして、理事3名、監事1名の候補者氏名（以下のとおり）が紹介された。

理事候補 稲野秀孝 栃木県医師国保組合理事長

理事候補 松村 誠 広島県医師国保組合理事長

理事候補 城守国斗 日本医師会常任理事

監事候補 杉本圭弘 高知県医師国保組合副理事長

- ・議長から、以上の4名を承認するか否かを問うたところ全員賛成で選任された。

(5) 第59回全体協議会の開催地について

- ・議長から、令和3年に開催を予定している第59回全体協議会開催地は、中国四国ブロックが担当し、高知県医師国保組合が主催することが提案され、全員一致で承認された。

(6) 国保問題検討委員会中間報告について

- ・篠原彰 国保問題検討委員会委員長が、2年間の折り返し点を過ぎた国保問題検討委員会の中間報告を行った。また、「高額医療費問題への対応」プロジェクト委員会の進捗状況についても触れた。

4. 講演

- ・講演は以下のとおり、2題で行われた。

(1) 「最近の医療情勢とその課題－新型コロナウイルス感染症対策に向けて－」
中川俊男 日本医師会会長

(2) 「国民健康保険組合を巡る情勢について」
森田博通 厚生労働省保険局国民健康保険課課長

5. 閉会

- ・近藤副会長が閉会を宣言し、会議は終了した。